

④外装こそZZR1100になっているが、空冷2のエンジンをベースに1,500ccまで排気量が上げられている。約330psを叩き出すエンジンだが、オイルが原因のトラブルないそうだ



④クラスフォーエンジニアリングでは、テスト・オブ・フリーランスにも積極的に参加する。チューンナップされたKZ900など大排気量空冷エンジンにも問題なく使うことができる



現在、REDFOXを取り扱っているのは、一部の量販店とショップとなる。その中でドラッグレースやストリートバイクにREDFOXを使っているショップ「クラスフォーエンジニアリング」の代表横田正彦氏にその実力を聞いてみた。「僕とSUNOCOの出会いは、ドラッグレースを通じてでした。90年代末ころドラッグレース用のガソリンを買っていたんですが、日本ではあまり知られていないが、SUNOCOはいろいろなガソリンを作っていて、日本にもドラッグレース用の高性能なガソリンを輸入している数少ないメーカーだったんです。そのあたりからお付き合いが始まりました。」

しばらくして、レースにSUNOCOが取り扱う四輪用オイルを使ってみましたが、やっぱりクラッチが滑ってしまう。これじゃ使えないなと話しているうちに、バイク用オイルの開発がスタート。それがREDFOXだった。しばらくドラッグレースで使って、不満な点など

を挙げていく。そしてその点が改善されて徐々に進化をしていきました。開発担当の方は、相当研究したんでしょうね。次に市販車でのモニターテストが行なわれました。当店では空冷2のユーザーが多く、100%化学合成のため、シールドへの攻撃性が気になりましたが、とくにオイル漏れという症状はありませんでした。ただし、リッターバイクでハイスピードで走るとクラッチが滑る症状が出た。エンジンを開けてみるとクラッチ板にコーティングがかかってしまっている状態に。ただこの症状もちゃんとした製品になるにはクリアされていきましたね。」

その後、ストリートレベルのユーザーにREDFOXを勧めたところ、現在に至るまで、とくに不満は出ていないとのこと。この不満がないということはネガティブな部分がないということ。同店では他ブランドのオイルも取り扱っているが、そのトップクラスのオイルと遜色ない性能をREDFOXが持つそうだ。とくにオイルにこだわっているユーザーは、クラッチの滑りやシフトアップの悪化など体感できるほどの性能差があれば、当然性能のいい方に移ってしまつてケースが多い。しかし、同店の



⑧0年代は一人のユーザーとしてアメリカを走り回ったりとバイクライフを満喫。その後、クラスフォーエンジニアリングを立ち上げ、チューナーとして活躍している

「高性能なオイルは、言い換えれば、何も不満が出ない」ということだと思えます。オイルとは非常に地味な存在ではありますが、なくてはならないモノ。REDFOXは粘度の異なる2種類がラインナップされていますが、絶版車から現行車まで幅広く使え、しかもリーズナブルな価格。黒子のような存在で、バイクライフをサポートしてくれるオイルだと思えますね」と締めくくると



⑥フリクションロスの低減を追求した低粘度10W-40はGSX1300Rハヤブサをはじめ、現行リッターバイクモデル向け、鋭いアクセラレーションを期待できる



⑤REDFOXは10W-40と15W-50の2種類をラインナップ。前者は高回転型の現行車、後者は空冷エンジンを持つ車両にお勧めだ。年式を問わず幅広く対応する

The Product Presentation of Custom Parts



SUNOCO RED FOX

日本で開発され、日本で生産される 二輪専用エンジンオイル

現在、二輪用エンジンオイルは数多くのメーカーから、さまざまなブランドのオイルがラインナップされている。その中に「REDFOX」というブランドがあるのをご存じだろうか。このオイルを製造しているのがアメリカに拠点を置くSUNOCO社の日本法人、日本サン石油である。

日本のバイクシーンではライディングウェアでSUNOCOの名前を知っている人もいるだろう。本来SUNOCOはアメリカでトップクラスの総合エネルギーメーカー。そのルーツは1866年と100年以上の歴史を持ち、アメリカ東海岸に数多くのガソリンスタンドを展開する有名な会社なのである。その中で、ガソリンや四輪用エンジンオイルをはじめとする数々の製品を世に送り出しているのだ。その数ある製品のひとつが二輪専用開発されたエンジンオイル。それがREDFOXなのである。



④敷地内にはベースオイルを保管するためのタンクヤードが林立する。その量1万2,000klに達するそうだ。ここから製造工場に導かれ、さまざまなオイルに加工されていく

ただし、このREDFOXを開発したのはアメリカ本国のSUNOCOではなく、日本サン石油だ。この日本サン石油は40年の歴史を持ち、その当時から製造している冷蔵庫庫などの内部に使われるオイル（冷凍機油）では世界トップレベルのシェアを持つとともに、独自の開発力で四輪用オイルを開発・製造を行なってきたのである。そして、そ

れまでつちかっていたノウハウをベースに四輪用の改良版ではなく、二輪専用として新たなオイルを生み出したのである。他メーカーであればさまざまなグレードをラインナップしているところが多い。それに対して、REDFOXは粘度の異なる2種類しかない。これはバイク用のオイルとしては後発となるため、他メーカーと差別化を図り高性能オイル1本に絞ったのである。ベースオイルにジェットエンジン用オイルにも使用されているポリオールエステルを採用した100%化学合成油。このポリオールエステルは高温耐久性にすぐれた素材で、高回転まで回る最新のスーパースポーツから空冷エンジンまで幅広い車種に対応する。また、マルチグレードの一般市販オイルに使用されている粘度指数向上剤（ポリマー）を使わずにマルチグレード化を実現。これによって、熱ダレが起こりにくくなっているのだ。と、一言でいっても、完成までさまざまな添加剤をブレンドし、レースシーンに投入。その後、改良を加えて市販車でモニターを集めて、さらに煮詰められていく地道な作業が繰り返されたのだ。



③これがベースオイルと添加剤を混ぜ合わせるための釜だ。その下部からドライエアを噴射し、その勢いでかくはんしていくのである。これによってエステルが持つ本来の性能をキープするので